

第2回佐久市文化振興推進企画委員会会議録

1 開催日時

日時 令和5年5月24日（水）
場所 佐久市役所南棟 大会議室

2 出席者

委員 文化振興推進企画委員7名（1名書面により参加）（1名欠席）
事務局 文化振興課長、文化振興係長、文化振興係2名

3 会議事項

1 開会

2 あいさつ

3 会議事項

- (1) 令和5年度 芸術文化活動事業補助金プランB審査 【資料1】
- (2) 令和4年度 芸術文化活動事業補助金について 【資料2】
- (3) 令和4年度 文化振興事業アンケート結果について 【資料3】
- (4) 令和5年度以降の文化振興事業計画について 【資料4】

4 閉会の言葉

4 会議内容

1 開会（略）

2 あいさつ（略）

3 会議事項

(1) 令和5年度 芸術文化活動事業補助金プランB審査 【資料1】

事務局：資料1及び審査資料について説明。

委員：この事業は、創造館の指定管理者が行っている事業だが、補助金の要綱上、市民の団体でなくても大丈夫なのか

事務局：創造館の指定管理者を中心に、実行委員会を組織しているため、別ものと考えている。
⇒その他、意見等なし

委員：それでは、プランBの補助金交付について、決議を取りたいと思います。補助金交付が適当と考える方は挙手をお願いいたします。

⇒全員挙手

委員：過半数以上の賛成者がありましたので、この委員会では、当該事業への補助金交付を適当と判断いたします。

⇒その他、意見等なし

(2) 令和4年度 芸術文化活動事業補助金について 【資料2】

事務局：資料2について説明。

委員：参加人数はどのように計っているのか。

事務局：チケットの販売実績、あるいは入館者カウンター等で計っていると考えられ、事務局

は、事業終了後に提出される報告書の数字で確認している。

委員：今後申請者が増えてきた際に、来場者を報告するのが負担になるのではないかと。期間中の写真から推定する等、申請者の負担を減らす取り組みも検討してもらいたい。
⇒その他、意見等なし

(3) 令和4年度 文化振興事業のアンケートについて 【資料3】

事務局：資料3について説明。公演ごとにチケット価格、来客層、及び広報方法が違うことから、こちらのアンケート結果を次回以降の事業に100%反映させることは難しいと考えるが、以前委員会においてご提案いただいたDRUM TAO公演の市民割の導入等、新たな取り組みを行った際の効果検証手段として、今後もアンケート結果について大切にしていきたいと考えている。

また、問5の「希望する公演のジャンル」や、問6の「文化振興基金の活用方法」等の質問について、今後も公演開催時にアンケートを取ることで、市民のニーズを踏まえた検討を行っていきたい。

委員：長い間文化振興基金事業を行ってきたが、文化振興基金が活用された事業であることを「知っている」と答えた方が少ないので、今後どのように周知を行っていけば良いか。

事務局：昨年のキッズ・サーキットより、文化振興基金についてのチラシを作成し、館内に掲示したり、配布を行っている。また、前回の委員会において、基金についてHPに掲載しているかのご指摘をいただいたことから、現在市HP上にページを作って掲載している。これまで、こういった周知を積極的に行ってこなかったことが影響しているかもしれない。

委員：本当に「文化振興基金」という名称を知らせなくてはならないのか。市民割引があるということを広報するだけでも良いかもしれない。「文化振興基金」と大きく構えると市民も「難しそうだね」と引いてしまうが、簡単に同じようなことで表現できればもっと浸透するのではないかと。

また、劇団四季公演の価格について、15%の方が「高い、やや高い」と評価しているのは驚きであった。

事務局：劇団四季のファミリーミュージカルは、色々な企業が協賛金を出して、地方に劇団四季を安く届ける「ファミリーミュージカル」というプログラムで公演を行っているため、東京より安い価格で観覧できる。劇団四季の公演は、長野県内の価格が一律で決まっており、市民割を導入できなかったことから、「適当」と答えた方が多かったのに対し、DRUM TAO公演は、一般を全国価格とし、市民割を導入することで割安感を打ちだしたことから、アンケートも「安い・やや安い」と答えた方が多かったと考える。

⇒その他、意見等なし

(4) 令和5年度以降の文化振興事業計画について 【資料4】

事務局：資料4について説明。事務局より令和7年度事業の案を出させていただいたが、これ以外の公演を企画したいということであればお受けする。

2025年(令和7年)ですが、佐久市が合併して20周年を迎えるアニバーサリーの年となる。これにちなんで予算を少し多めに財政課へ要求できないか検討しており、できれば大きいものを2公演くらい実施したい。

委員：事業団でも小規模事業を行っているが、落語等は、大型事業を行う文化振興課でやるようなものではないのではないかと。事業団の事業と文化振興課の事業をどういった認識で行っているのか。

事務局：事業団はも検討委員会を開いて事業を決めている。また、公演の値段によって市が行うもの、事業団が行うものと線引きはしていない。

委員：事業団は最近鑑賞型事業を行っておらず、参加型事業が多い。

事務局：事業団とは事業内容が被らないよう調整をしながら進めている。

委員：原点に戻って考えてみると、今話さなくてはならないのは市民のために行っているこ

と、芸術文化について考えていることだと思う。どこからか質問があったとき、市民の為にこういった芸術文化事業を行っている、それは予算の範囲内だということを全方位に説明できなくてはならないのであって、そのためには、リーズナブルさ等について意思統一を行い、絞り込んでいったほうが良いのでは。

⇒その他、意見等なし

4 閉会（略）